

暖話室

福岡・糸島市

市公議

音の出る信号機設置を後押し

福岡県糸島市いとしまの南風台中央交差点にこのほど、音の出る信号機が設置された。一人の声をきっかけに、市議会公明党の笹栗純夫議員すみおが後押しして実現したもので、地域住民から喜ばれている。

三差路の同交差点近くに住む全盲の春川良太さん(58)は通勤時、この交差点で横断歩道を渡ってバス停に向かっていた。

その際、車のエンジン音や車が横切る際の風の流れて青信号を感じ取り、横断歩道を渡っていたが、10年



音の出る信号機の設置を喜び合う春川さん(右から4人目)と笹栗市議(右隣)ら

ほど前からハイブリッド車などの音が聞こえにくい車が増え、判断が困難になっていた。

雨の日は、傘に当たる雨音で、車の音がさらに聞き取りにくくなるため、同じ方向に横断する歩行者が現れるまで、交差点で待ち続けることもあったという。

バス停近くの理髪店の従

業員がこうした春川さんの姿を見掛け、1年前に党支持者の小林桂子さんに相談。小林さんから話を聞いた笹栗議員は、すぐさま市に音の出る信号機の設置を要請し、糸島警察署を通じて

県警に対応を求めた。

その結果、ラジオ局が募金をもとに県警に寄贈している音の出る信号機が、同交差点に設置された。

春川さんは「長年、怖い思いをしてきたが、バス停まで安心して行けるようになり、本当に感謝している」と満面の笑みを浮かべていた。